

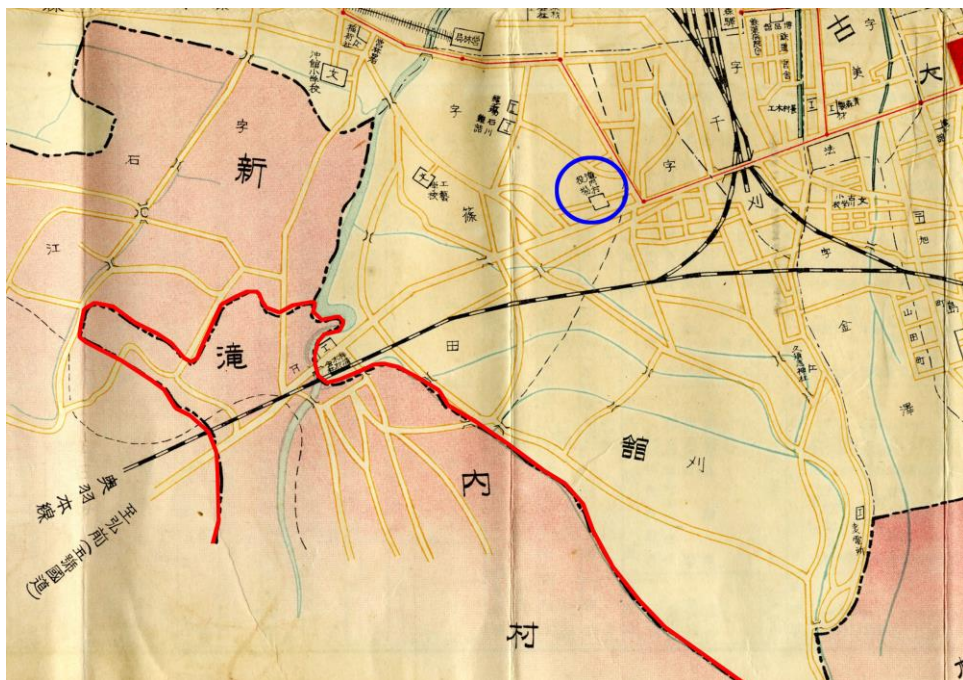
こんにちは。歴史資料室の村上です。

歴史資料室では、10月15日から新しい館内展示「わんどの図書館！—青森青年倶楽部図書部から120年」を始めました。この展示は青森市における公立・私立の図書館のあゆみを紹介するもので、私は大正時代の青森市立図書館に関する部分を担当しました。

大正時代の市立図書館は、青森市の施設でありながら隣接する大野村に立地しているという複雑な状態にありました。市立図書館は明治43年（1910）の大火により米町（現本町）の館舎を失い、大正4年（1915）に大野村の旧帝室林野管理局青森支庁の建物（現古川小学校敷地）へと移転しています。そして、大正14年に市立工芸学校内（現橋本小学校敷地）へ移転するまで大野村に置かれていたのです。

一方、青森市内に別の村の公共施設が置かれた事例もありました。それは青森市に隣接する滝内村の村役場です。

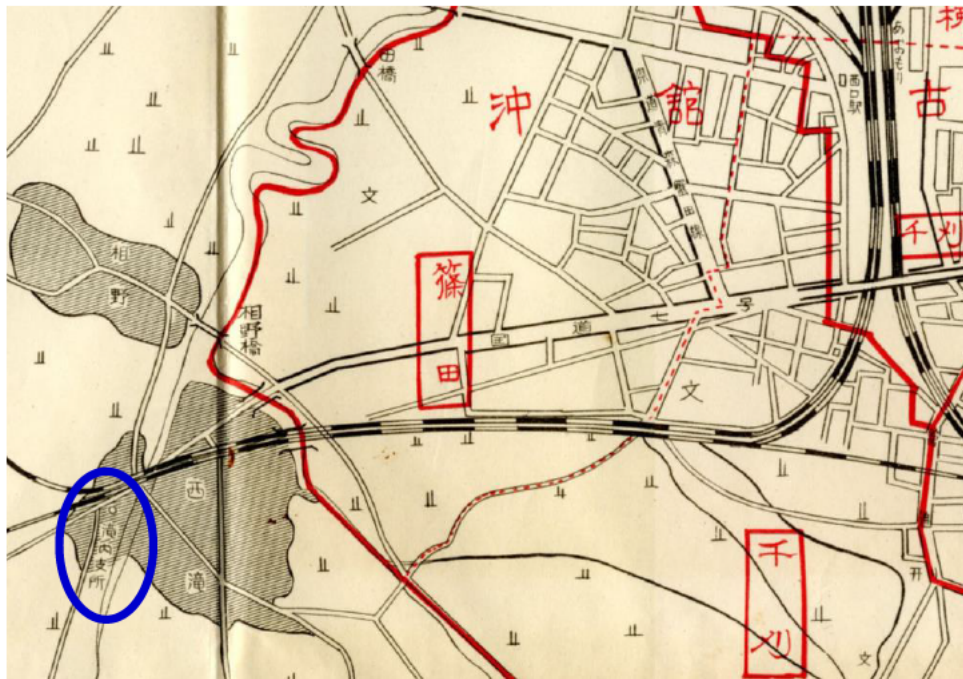
きっかけとなったのは昭和2年（1927）に滝内村の大字沖館が青森市に編入されたことでした。当時、滝内村役場は大字沖館字篠田（現在の篠田2丁目）、つまり青森市へ編入される地域にありましたが、役場は移転することなく同じ場所で業務を続けたのです。



滝内村役場の位置（昭和6年「青森市勢一覧」、歴史資料室蔵）  
※赤い線で示したのが青森市と滝内村の境界

昭和2年4月2日付の『東奥日報』夕刊には、記者が滝内村の書記の案内で青森市に編入されたばかりの沖館地区を歩いた際のように紹介されています。記事によると、記者が「それぢや役場は青森市に入れられた訳ですね、早晩移転するんじゃないですか」と尋ねたところ、書記は「どうですか分かりません、移転しなければならぬでせうか」と答えたといひます。このことから、村に役場を移転しようという考えはなかったものと推測されます。

その後、昭和 20 年の青森空襲により滝内村役場は罹災し、西滝跨線橋の西側へと移転しました。移転先は滝内村内であったことから、青森市に滝内村役場が置かれるという複雑な状態は解消されました。そして、昭和 26 年に滝内村が青森市と合併すると、旧村役場は青森市役所滝内支所となりました。



滝内支所の位置  
(昭和 30 年代「青森市街図」、歴史資料室蔵)

なお、滝内支所は昭和 45 年 1 月 1 日付で廃止されています。『青森市議会史 自昭和四十四年至昭和四十七年』には昭和 44 年 12 月 25 日に西滝公民館で滝内支所の閉所式を行ったことが記されています。



滝内支所  
(昭和 30 年代、歴史資料室蔵)